

えべつの未来づくりミーティング

～ 地域福祉に関わりの深い方（江別市社会福祉協議会）編 ～

令和4年5月24日（火） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後3時55分

1 江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、他の自治体に比べて人口の減り方が小さいこと。江別市に住みたい人の割合が比較的高いのではないだろうか。札幌市に近いことは強みでもあり、弱みでもある。例えば、江別市内には精神科の療養病床数が少なく、札幌市内の病院を使わざるを得ないこともある。



・市街地と緑地のバランスが良く、落ち着いて暮らしやすいまちだと思っている。また、道内外の友人と会う時に、鉄道や空港など交通アクセスが良く、カフェなどの紹介したい店があることも強みだと感じる。気になるところは、年をとっても暮らしやすいか心配であること。地区で異なるが、移動や買物を自分の力でできるように、公共交通などがもう少し改善されると良いと思う。

・市外から転入してきた時、ゴミ袋が1種類しかないことに驚いた。環境クリーンセンターが立派なものもあるが、袋を何種類も用意しなくていいことは良いと思う。市外に住む母子家庭から相談を受けることもあり、江別市に引っ越したい、または引っ越してきたという話を聞く。子育て支援センターの活動も盛んだと思う。弱みは、生活困窮者を支援する中で、就労相談を受けるが、高齢者だと、なかなか就労先が決まらないこと。シルバー人材センターは生計を立てるための収入を得ることが目的ではないので、高齢者の仕事の間がもっとあると良いと思う。



・近隣市の友人からは「江別市には映画館があつていいね」と言われる。商業施設も多く、何か買おうとする時、江別市内で完結できることも多い。公園も多く、規模の大きい公園もある。市外に住んでいる時、湯川公園や野幌屯田町公園に遠足で来ていた。また、高齢者に「何かあったら社会福祉協議会へ相談できる」という意識が浸透していて良いことだと思うが、社会福祉協議会でできる範囲や役割をもっと伝えていくことが必要だと思う。弱みは、新栄台に住んでいるが、車がないと不便なこと。今は車があるので便利だが、大学生の頃は車を持っておらず、札幌市厚別区にある大学まで行くのに、冬になると往復3時間ぐらいかかり、苦勞した。季節によっては風が強く、高校生の時は

自転車通学だったので風が強い時は大変だった。ボランティア活動に関心を持っている大学生が多いが、市内出身者よりも市外出身者の一人暮らしの方が多く、地元が江別市の方でも「自分自身が江別市民である」という感覚が薄い方も多いのではないかと考えている。店については、個人的な思いだが、ユニクロやGUなどの手ごろな洋服店がなく、市外に買いに行かなければならないことが残念。若者がよく買いに行く洋服店があるといいと思う。

・強みは知名度が高い札幌市に近いこと。以前、道外に住んでいる時に、江別市を「札幌市の隣」と説明することが多かった。また、札幌市に比べて土地が安いので、購入しやすい土地を求めて転入して来る人が多いことは強みだと思う。弱みは、大学生の多くが就職を機に転出していくこと。就職先を選ぶ場所としては、江別市は魅力が少ない。また、江別市と言えばこれ、という知名度が高いものがない。観光によって経済を活性化させることは大事だと思うので、観光振興も進めてほしい。



2 地域福祉(相談業務)について

- ・自分はボランティア活動を支援する業務に携わっている。江別市はボランティア活動への参加意欲がある人が年齢問わず多いと感じている。北翔大学に講義に行った際も、講義後、ボランティア登録をしてくれる学生がいた。ボランティアをうまく活用している高齢者施設や障がい者施設は比較的多いのではないだろうか。市外では、施設職員だけで支援を行っているところも多い。一方、コロナ禍になり、ボランティア活動への参加意欲があっても活躍する場が減っていることが課題。ボランティアも高齢の方が多く、この2年間活動ができなかったため、もう活動は難しいという声も聞く。働く期間が長くなる中、ボランティア活動に参加する方も限られてくるだろうし、学生も活動してもらえる期間は限られている。以前のように活動していただけるようになることを望んでいる。
- ・ICTの活用は、年齢が高いボランティアが多く、なかなか浸透していない状況。連絡手段は電話やファクス、郵送が中心だが、今後は、若者が使いやすいツールも用いて連絡したいと考えている。
- ・ここ数年、市内のヘルパーが減少していることが課題。ボランティアで支援できる部分は限りがある。福祉機器は、本人にあった機器を利用してもらうことが重要で、社会福祉協議会から借りるよりも、介護サービスによる貸与を受ける方が良い場合もあるので、適切な方法で機器を借りてもらえるように周知できたらと思う。
- ・福祉教育については、夏と冬に、高校生を対象としたワークキャンプなどを実施しているが、参加者が少ない。どうしたらもっと参加してもらえるか悩んでいる。
- ・総合相談では、いろいろな相談を受ける。コロナ禍もあり、観光業やタクシー運転手など、これまで相談がなかった方々からも相談も受けるようになった。コロナ禍前から生活が苦しかった方が、コロナ禍で一気に困窮状態になったという方もいる。貸付の制度もあるが、長期に続くものではないので、いかに就労につなげていくかが課題。経済的だけでなく、社会的困窮もある。引きこもっていて、社会とのつながりのない方から相談を受けることがある。江別市には引きこもりの当事者会や家族会がないので、今は札幌市にあるレター・ポスト・フレンド相談ネットワークというNPO団体の主催で、江別市内で集まる機会を設けているが、今後は江別市独自で引きこもり支援の会の立ち上げを考えなければならない。また、社会的困窮者を支援する活動を、当事者にどうやって周知していくかも課題である。
- ・生活支援体制の整備を、四つの地域包括支援センターと連携して進めており、移動支援、買物支援、助け合いの場づくりなどを支援している。また、通いの場づくりとして、人とのつながりをつくるサロンも市内に200か所あり、サロンの活動が途切れなないように努めている。近年、活動を支援しているボランティアが高齢化して、支援する側から支援される側となり、ボランティアの人数が減っていることが課題。今まで手伝ってくれていた方々をつなぎとめたい。ボランティア活動への経済的な支援はないが、お金だけでなく、やりがいやどう伝えていくかも大事だと考えている。地域で「話を聞いてほしい」という承認欲求を抱えていたり、行動の発散の場を求めている高齢者が増えているが、そのような方も、将来、ボランティア活動に参加してくれるかもしれない。ボランティア活動をしてくれそうな方々と、地域でボランティア活動を求めている方々を、うまくマッチングしていくことが大切だと思う。



- ・成年後見制度の利用は、核家族化も進んでいる中、年々増えている。また、福祉制度全般に関することだが、制度のメリットだけを見て、デメリットを見ていない人が多いと感じるので、十分に理解してもらうことが大事だと思う。関係機関に理解を深めてもらうことも大事で、関係機関を対象に出前講座を開催することなども効果的ではないかと考えている。
- ・市の国民年金の担当としては、どうやって情報を伝えるか、どうやって理解してもらうかに苦慮している。市は発信しているつもりでも、分からないという

問い合わせが電話で来ることが多い。若い世代はホームページである程度自分で調べた上で問い合わせしてくるが、年代が高いと広報誌を読んでも分からないので、とりあえず電話した、というケースが多い。年代によって、情報収集手段や理解に差が生じている場合があることを、発信する側もよく理解し、情報発信の方法を考えていくことが重要だと感じている。

3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・空き家対策。札幌市も江別市も、地価が上がっている。収入がある人からも、江別市で土地を探しているが見つからないという声を聞く。空き家を取り壊して住宅地を増やすなど、若い人が住宅地を買える状況をつくるべきだと思う。
- ・人とのつながり合い・お互い様の支え合いと、移動支援の二点。つながりがある人は心身の健康度や幸福度が高いということが科学的に明らかになっている。いつか自分のためになるという気持ちが広がると、人とのつながりや支え合いも増え、関わる皆さんの幸福度が高まるのではないかなと思っている。移動支援は、買物や通院などをできるだけ自分の力でできるようにする。公共交通機関の利用促進も大事だが、お互い様という気持ちで乗せ合うような地域になると良いと思う。
- ・デマンド型交通については、市街地への移動など距離がある部分は運行されているが、近所で行われているサークルに参加したい時などに利用できるよう、町内の運行が充実することを望む声が多い。最近、簡易郵便局がなくなった地域や、日帰り温泉施設の送迎がなくなった地域、スーパーマーケットがなくなった地域などがあるので、今後、デマンド型交通の需要は高まると思う。
- ・高齢者に限らず、働く場の充実。働き方が多様になっているので、いろいろな働き方ができる職場を増やしたり、多様な働き方への支援ができると良いと思う。障がい者の就労支援も必要。就労継続支援B型事業所は比較的多いが、就労継続支援A型事業所は少ないので、もっと増えると良いと思う。
- ・今も力を入れていると思うが、出産にかかる費用の負担軽減。出産育児一時金は出産後に受け取るので、出産前にかかる費用に対する助成が増えたらよいと思う。もう一つは、障がい児支援。自分の子どもが障がいを持って生まれたことで、どう育てていくか不安になっている人も多い。また、高齢になっても誰もが住み続けられるまちづくりも必要だと思う。自分の家で最後を迎えたいという人も増えており、それを支えるボランティア組織もできている。一方で、施設で最期を迎えたいという人もいる。それぞれの希望が叶うように支援できると良いと思う。
- ・地域内交流の支援が必要だと思う。人口が減少すると、バスなど営利を目的としたサービスの維持が難しくなり、さらに不便さが増すと思う。一方、核家族化とともに孤立する方がますます増え、人口減少も止まらないと思う。人口が減っていく中で、どう快適に暮らしていくかを考えた時、知らない人と協力し合うよりも、知っている人たち同士が協力し合う方が、ハードルが低く、協力しやすいと思うので、交流の場をつくっていくことが大事だと思う。小さい時に地域のイベントで交流があった地域の方々を、そのまま良い印象で覚えていたりもする。普段から楽しい場面で交流する場が、市内に増えたら良いと思う。

